

魅力あるまちへ向かって 未来はこうなる四日市！

本市は都市機能が集積した、利便性、安全性、快適性が高い市街地の形成を進め、皆さんが生涯にわたり健康で暮らしの中で楽しみと幸せを実感できるまちづくりを目指しています。

今回は「中央通り再編事業」、「スマートリージョン・コア」、「新大学の設置」、そして「四日市市都市計画マスタープラン全体構造の見直し」の視点で、未来に向けて本市がどのような姿に変わっていくのかを紹介します。

「ニワミチよっかいち」中央通り再編事業

車道を集約し、歩行者と自動車、自転車を分離することで、安全・快適でウォーカブルなまちに生まれ変わり、皆さんに楽しんで歩いていただけるようになります

1 近鉄四日市駅西側

- 駅や周辺のビルなどをつなぐ歩行者専用の通路となる歩行者デッキの整備などにより、オフィス・マンションなどの立地が進む駅西街区へスムーズな移動が可能になります
- 桜の名所、鵜の森公園がリニューアルします。こどもの好奇心と考える力を育む多様な遊具や誰もが楽しめるようにデザインされたインクルーシブ遊具を設置します

2

諏訪公園
(令和11年3月完成予定)

直線デッキ(商店街側)
(令和8年9月完成予定)

直線デッキ(近鉄側)
(令和8年6月完成)

円形デッキ「よんまるテラス」
(令和7年12月完成)

円弧デッキ
(令和10年3月完成予定)

市民公園
(令和7年1月完成)

鵜の森公園
(令和10年3月完成予定)

知と交流の拠点施設

「滞在型図書館」や「多目的にも利用できる小規模ホール」、「カフェ」などの複合施設です。機能同士の相乗効果を生み出すことで、こどもから大人まで、多くの人が利用できる魅力ある施設を目指します



3

中央通り公園1期
(令和9年7月完成予定)

中央通り公園2期
(令和10年3月完成予定)

3

国道1号～JR四日市駅周辺

中央通り公園を整備し、遊んだり、ゆっくりしたり、散歩したりできる空間になります

大学等拠点施設 (詳しくはP6へ)

人材の育成、研究などを通じたイノベーションの創出、生涯教育などを行い、地域産業のさらなる成長と発展につなげることを目的とし、産学官民が一体となって新たな価値を創出する先進的な学びの場となる「四日市産業共創大学群(仮称)」の形成を目指します



JR四日市駅

スマートリージョン・コアの 取り組み (詳しくはP5へ)

スマートリージョン・コアは、中央通りの再編やバス整備と合わせて、デジタル技術を活用し、中心市街地のスマート化を進め、利用しやすい・活用しやすいまちづくりを目指す取り組みです。

●スマートインフラの整備

- ・スマートポール
- ・Free Wi-Fi

●利活用空間活性化ツール

●デジタルマップ(四日市版 MaaS)

各種公共交通情報がみられて、目的地まで迷わず快適なお出掛けが可能になります



●自動運転バスの運行

●ニワミチよっかいちポータルサイト

●シェアまちよっかいち

公園や道路空間を活用して、市民や周辺住民が楽しめる新たなにぎわいづくりができないか？

中央通りのオープンスペースを使って、市民参加型のイベントを開きたいけど、ハードルが高いのかな？



マッチング



出店者



●デジタルインフラ台帳

車中心の道路から、「歩きたくなるウォーカブルな空間」へと生まれ変わる中央通り。中央通り再編による新たな日常を紹介します。

1 近鉄四日市駅西側

将来の姿

車線数を削減して生まれたスペースは、緑豊かな歩行空間と独立した自転車道となります。円弧デッキにより、駅から再整備した鶴の森公園や駅西方面に安全かつスムーズに渡ることができます。

新たな日常

歩行者と自転車の移動が安全で快適になり、自動車も運転しやすくなります。オフィスやマンションが建ち並び、リニューアルした公園などではさまざまなイベントが開催されるなど、活気にぎわいのある誰もが訪れたい場所になります。



円弧デッキイメージ

2 近鉄四日市駅東側

将来の姿

車道を南側に集約して生まれた商店街側のスペースには、路線バスや高速バスの乗り場が集約された「バスタ四日市」を整備します。近鉄・あすなろう四日市駅とは屋根付きの歩行者専用通路によって結ばれ、快適にバスが利用できるようになります。

新たな日常

安全で快適な分かりやすい動線により、天候に左右されにくい環境で移動や乗り換えができます。将来的には自動運転バスなど、次世代モビリティの導入も予定されています。



「バスタ四日市」イメージ

3 国道1号～JR四日市駅周辺

将来の姿

車道を南側に集約したことで生まれたスペースに、自転車と分離された歩行空間のある公園を整備します。公園内には、民間企業と連携したカフェや日常的な買い物ができる憩いの場所が広がります。

新たな日常

気軽に散歩し、遊び、休憩することができる「ニワミチ」空間が広がり、イベントを開催できるスペースもあるなど、居心地が良くワクワクする場所になります。公園内を通れば、歩行者は安全で安心に移動できます。



中央通り公園イメージ

みんながバリアなくどこへでも行ける中央通りへ

歩行者専用通路は、できる限り段差をなくし、エレベーターやエスカレーターを設置するなど、誰もが利用しやすい通路として整備します。自転車や自動車と分離することで安全に通行できます。各所に休憩できるベンチも配置します。

駅からの移動や乗り換えの通路は3.5 m以上の十分な広さを確保し、誰もが安全で安心して、そして快適に移動できるようになります。あすなろう四日市駅前の南広場のエレベーターの付近にはハンディキャップスペースを設け、福祉車両などでの送迎がスムーズになります。

再編された中央通りを舞台とした、利用しやすい・活用しやすいスマートリージョン・コアの取り組みを紹介します。

まちの様子がよく分かるスマートリージョン・コアの取り組み

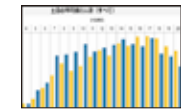
スマートインフラ

AIカメラや環境センサが搭載されたスマートポールを中央通り沿道に整備。渋滞状況、歩行者の流量、暑さ指数などのデータを収集します。



ダッシュボードの利用 (利活用空間活性化ツール)

まちの「今」と「過去」が分かる便利なダッシュボード機能を搭載。スマートインフラが収集した、地点ごとの通行人数や気温などのデータをグラフなどで分かりやすく表示。月別・時間帯別の傾向まで簡単に確認できます。



この時間帯は、人通りが多いからこのスペースに出店しよう!

出店者

デジタルマップ(四日市版 MaaS)

中心市街地周辺の施設情報、自動運転を含むバスの現在地、イベント情報のほか、市営駐車場の空きもひとまとめに確認できます。



MaaS(イメージ)

MaaS (Mobility as a Service) とは 出発地から目的地まで複数の移動手段をひとつのサービスとして捉え、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念

自動運転バスの運行

中心市街地の回遊性を高めるために近鉄四日市駅～JR 四日市駅間を含む中央通りを運行します。街並みをゆっくり眺めながら楽しく移動ができる、次世代型モビリティです。



令和7年度自動運転実証実験



令和8年度実証実験の詳細はこちら



各コンテンツの内容など中心市街地の情報は、「ニワミチよっかいちポータルサイト」から

ニワミチよっかいちポータルサイト

ポータルサイトを利用すればさまざまな情報が確認できます。事前にスマホで確認しておけば、混雑を避けて空いている時間を狙ったり、気になるイベントに立ち寄ったりと、あなたの時間がもっと有効に使え、そして楽しく過ごせます。



ポータルサイトはこちら



社会実験において活用中 シェアまちよっかいち



「イベントに出店したいのに、場所がない」そんな悩みに応えるための、公共空間などのオープンスペースとイベント出店などの要望をつなぐマッチングサービスです。3D機能や平面図、活用例もあり、出店が便利になります。



シェアまちよっかいちを活用した社会実験

デジタルインフラ台帳

埋設物事業者向けサービス

地下埋設物の位置を立体的に把握することができ、埋設物の維持管理の効率化や、災害時の迅速な意思決定が可能になります。



デジタルインフラ台帳のイメージ

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は 市街地整備課 TEL 354-8200 FAX 354-8404
政策推進課 TEL 354-8112 FAX 354-3974
まちなか拠点創造課 TEL 354-8414 FAX 354-3974

JR 四日市駅前への大学設置について

少子化の時代になぜ大学をつくるの？～四日市の強みと弱みから～

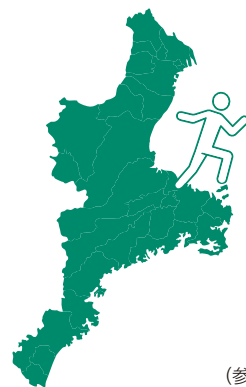
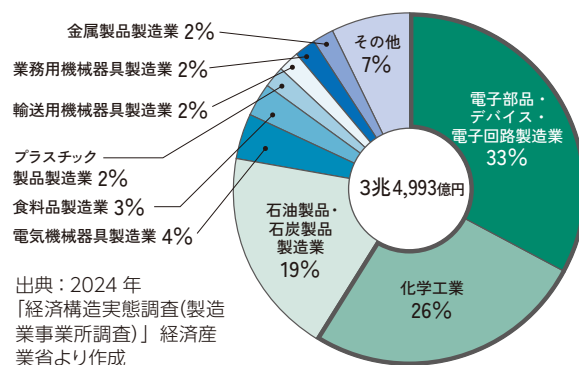
本市は、製造品出荷額が全国 12 位の日本有数の産業都市です。なかでも半導体を含む「電子部品・デバイス・電子回路製造」、コンビナートを中心とした素材産業を含む「化学工業」は本市の製造品出荷額の約 6 割を占めています。しかし、三重県内で工学分野を学ぶことのできる大学は三重大学 1 校のみです。加えて、三重県内の大学収容力は 18.98% (全国平均 40.59%) で全国最下位であり、

県内の高校生の約 8 割が県外へ進学しています。

国は、2040 年には大卒・大学院卒の理系人材が 124 万人不足すると推計しています。少子化や働き手不足に対応し、今後求められる理系人材比率を約 5 割まで維持・確保する方針を推進しています。本市では、このような地域の現状をふまえ、JR 四日市駅前への大学設置を検討しています。

※大学収容力…県内の大学入学定員を県内の 18 歳人口で割った数値

四日市市の製造品出荷額の内訳



県内の高校生の
約 8 割が県外へ流出

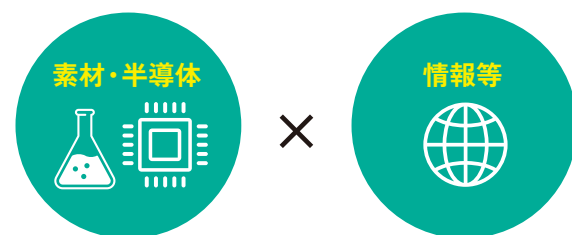
三重県外への高校生
大学進学者数 6,117 人

三重県内の高校生
大学進学者数 7,875 人

三重県内の大学収容力は
全国最下位

(参考) 文部科学省「学校基本調査(令和 7 年度)」

どんな大学を作るの？



本市が中心となって設置する公立大学(令和 14 年度開学予定)と三重大学の新教育研究拠点を想定し、三重大学と協議を進めています。

また、公立大学の教育研究分野は地域の産業構造を踏まえ、多くの産業を支える「素材」と「半導体」とします。併せて、デジタル技術を活用する「情報等」を一体的に学びます。

大学設置により地域産業のさらなる成長・発展を遂げていくには、**地域が必要とする人材が何かを地域全体で考え、それを実現する必要があります。**本市では、その第一歩として、シンポジウムを開催しました。

地域の明日を創る新大学～地域が必要とする大学を目指して～ シンポジウムを開催(6月27日)

シンポジウムには 300 人を超える参加がありました。森市長と三重大学伊藤学長は、公立大学と三重大学が同じ建物で教育研究を展開する枠組み「四日市産業共創大学群(仮称)」を示しながら大学設置への取り組み状況を報告しました。そして、さまざまな分野のゲストが基調講演やパネルディスカッションを行いました。

四日市産業共創大学群(仮称)

四日市公立大学(仮称)

収容定員 400 人

+

三重大学(国立大学)

収容定員 400 人



三重大学 伊藤正明学長

<基調講演でいただいたご意見>



中部経済産業局 産業部長
今野 直明 さん

地域の成長の鍵は人材であり、公立大学の設置はその基盤になり得る取り組み。地域企業との実践的な教育を進め、地域産業の将来を支える人材育成を期待したい。



文部科学省 専門教育課企画官
星 幹崇 さん

少子化時代において、地域が必要とする人材が何かを地域全体で考え、話し合い、それを実現するための大学であれば、作っても良い。



新潟県三条市 経済部 商工課長
(元三条市立大学 理事兼事務局長)
今井 智之 さん

工業系大学は、人材育成の場であると同時に、地域産業と地域社会をつなぐ結節点となり得る。

ご登壇いただいた皆さんからシンポジウムでの感想をいただきました

シンポジウムでは、今後の社会動向を踏まえた四日市市の狙いをご説明いただき、三重県内における人材育成の重要性に共感しました。

弊社でも DX 推進が進む中、理系をはじめとして、未来のものづくりを担う人材を求めています。四日市に大学を置く本計画は、地元で学び、働く選択肢を広げるものとして大いに期待しています。



住友電装株式会社
石田 さん

詳細な説明やディスカッションを通して、多くの大人がどのように考え、計画しているのかを知ることができ、さまざまな学びがありました。私が知らなかった三重県の魅力や街を盛り上げていこうとする人たちの熱意や意見を直接感じることができました。私が進学する頃には実現が難しいかもしれませんが、県内の後輩が安心して理系分野に挑戦し、社会に羽ばたける環境が三重県に整うことを期待しています。



海星高等学校
ダブルディプロマ科 2 年生
伊藤 さん

地域をより良くするためにさまざまな立場の人が協力し、行動している姿を間近で学ぶことができました。講演や意見交換を通して、まちづくりは行政や企業だけでなく、一人ひとりの思いや行動によって支えられていることを実感しました。また、夢の実現に向けて挑戦し続ける皆さんの姿から大きな刺激を受けました。今回の学びを生かし、私自身も将来の夢の実現に向けて努力を重ね、地域や社会に貢献できる人になりたいです。



海星高等学校
国際数理コース 3 年生
溝口 さん

令和 14 年度の開学を見据えると、現在の中学 1 年生や小学校高学年のこどもたちが、今後、JR 四日市駅前に建設される姿を見ながら、「この大学で工学を学びたい!」という夢を持つことができると感じました。まちの活性化にもつながる魅力的な大学となることを期待しています。



四日市自治会連合会
会長 山路 さん

未来に続く、安全で魅力ある都市を目指して

本市は令和8年3月に、まちづくりの基本方針を示す「四日市市都市計画マスタープラン全体構想」と「四日市市立地適正化計画」を見直しました。

今回の見直しでは、「都市の魅力・活力の向上と持続可能なまちづくり」、「まちづくりと連携した誰もが移動しやすい交通環境づくり」、「災害リスクを踏まえた安全・安心なまちづくり」の視点を重視しました。特に近年、激甚・頻発化する自然災害への対応の重要性が高まっていることから、都市再生特別措置法の改正を受けて、防災まちづくりの方針を示す「防災指針」を新たに盛り込みました。

四日市市総合計画

三重県都市計画区域マスタープラン

これらの方針に沿って策定

四日市市都市計画マスタープラン

全体構想

市域全体の将来像、まちづくりの方針・方向

- ・おおむね 20 年後の市の将来像
- ・土地利用や都市整備などまちづくりの方針
- ・土地利用の基準

地域・地区別構想

地域・地区単位の
土地利用や整備計画

整合性を図って策定

四日市市立地適正化計画

- ・コンパクトで生活利便性の高い持続可能な将来都市構造
- ・居住や生活を支える機能の誘導方針
- ・公共交通ネットワークとまちづくりの連携
- ・防災まちづくりの取り組みとして、新たに「防災指針」を位置付け

① 災害リスクの回避

災害リスクが特に高い区域について、被害を事前に回避する取り組みを推進する

② 災害リスクの低減（ハード）

大雨などによる浸水が想定される区域などを中心に、ハード対策により災害の発生抑制を推進する

③ 災害リスクの低減（ソフト）

ハード対策だけでは対策しきれない災害リスクについて、災害発生時における事前の避難や緊急避難などのソフト対策を推進する

目指す都市像

コンパクトシティ・プラス・ネットワークによる持続可能な
まちづくり
(生活利便性の維持・向上) (交通網の維持・再編)



本市が目指す将来都市像「将来都市構造図」

この地図は、本市のおおむね 20 年後の将来像を分かりやすく示したものです。これまでのまちづくりや地域の特性を活かした「拠点」の機能を高めることで、都市としての魅力・活力の向上を図ります。居住環境や土地利用の状況に応じた方針を示し、それぞれの特性に応じた「土地利用」を図ります。そして、道路や鉄道、バスなどの「ネットワーク」がまち全体を効率良くつなぎ、誰もが移動しやすい交通環境づくりに取り組みます。これらを通じて、コンパクトシティ・プラス・ネットワークによる持続可能なまちづくりを目指します。

■ 拠点

中心拠点

都市の活力の中心で高次都市機能が集積し、広域交通ネットワークの中心となる特急停車駅の近鉄四日市駅などのある中心市街地の商業・業務系土地利用を図る区域

地域拠点(買い物拠点+交通拠点)

買い物拠点であり、交通拠点でもある富田周辺

買い物拠点

生桑・尾平周辺、日永・泊周辺の大規模商業施設が立地する商業・業務系土地利用を図る区域

交通拠点

急行停車駅である塩浜駅周辺の商業・業務系土地利用を図る区域

■ 主な公園・緑地

■ 産業活性化ゾーン

臨海部工場地帯や内陸型産業の立地地区、北勢バイパス整備により広域交通の利便性が高まる区域など産業の維持・増進に向け港・工業系土地利用を図る区域

■ ネットワーク

鉄道

高速道路、国道、県道

都市計画道路

基幹バスネットワーク

公共交通ネットワークの軸となる基幹的バス路線(30 本 / 日相当運行路線)

支線交通

郊外部と基幹バスネットワークや拠点などを結ぶ交通ネットワーク

バスターミナル(バスタ)

中心市街地を中心とした公共交通ネットワークの鉄道とバスの乗継拠点

バス乗継拠点

基幹バスネットワークと支線交通の接続地点

■ 土地利用

住宅系 主に住宅地としての土地利用を図る

商業系 主に商業・業務地としての土地利用を図る

工業系 主に工業地としての土地利用を図る

自然と共生を図る区域 主に自然・緑系の土地利用を図る

農用地区域 農業環境の維持・増進を図る

風致地区 風致や景観の維持・保全を図る